

詠む広場

毎日俳壇

西村 和子選

中継のラジオが拾ふくさめかな

浜松市 久野 茂樹

△評▽音声のみのラジオ中継は想像力を刺激する。本来伝えるはずのなかつたくしゃみが、その場の寒さを如実に語る。

麦の芽や播州平野息づきて

明石市 吉室 奨

△評▽播州という旧称が、眼前の光景から播磨風土記の時代までを思わせて、時空壮大な句。青空を待みて開く冬桜

越谷市 安居院半樹
追悼文推敲続け大旦

河内長野市 橘 章生
客が来て猫ひきはがす置炬燵

大阪市 吉田 昌之
寒雀一羽飛び立ち全て去り

白岡市 五十嵐忠夫
枝移りするたび透けて初雀

川越市 峰尾 雅彦
変哲のなき我が町の初景色

西東京市 永島 忠
まだ癒えぬ病と年を越しにけり

丹波篠山市 西尾 菜月
岩つかむ木の根出現沼溷れて

羽曳野市 鎌田 如水

井上 康明選

それぞれの国にそれぞれ初日かな

長崎市 鶴田 鴻巳

△評▽地球上のすべての国は、それぞれの事情があつてさまざまだが、初日は平等に訪れる。まずは、その幸いを祈ることでしょう。雪片のとめどなく吾に向かひ来る

大阪 芹澤 由美

△評▽雪のかげらは絶えることなく作者に向かつて吹きつける。そのなかを懸命に歩いていく。御所の雨雪にかはりし光悦寺

加古川市 伏見 昌子
丹沢の雲のゆききも春隣

秦野市 安藤 泰彦
高きより足場組む音日脚伸ぶ

伊勢市 奥田 豊
動かざる雲ばかりなり冬の空

上尾市 山口 流離
さしきしと回廊長し石路の花

久留米市 持地 恒美
薄墨の香煙浴ぶる淑気かな

奈良市 伊東 勝
塹壕に地下壕に人悴める

横浜市 正谷 民夫
春近しむかし軍馬の調練場

小林市 市来 遊山

片山由美子選

幼子について見せては手鞠唄

野洲市 宮田絵衣子

△評▽今の子供たちにとつてはまりつきも手まり歌も物珍しいことだろう。何度も「ついて見せては」というところに実感がある。独りとは気楽で淋し水仙花

日高市 落合 清子

△評▽誰にも気兼ねをする必要がない暮らしは気楽ではあるけれど、と、季語に心情を委ねた一句。厨よりカレーのにほふ三日かな

東京 徳原 伸吉
生涯を生家に暮し餅を焼く

和歌山 馬谷富貴子
二人には余る白菜貰ひけり

北九州市 宮上 博文
富士めざし富士に送られ箱根駅伝

小田原市 林 梢
貰ひたる人に返して風邪癒ゆる

東京 草野 准子
着ぶくれの集まつて来る停留所

川口市 高橋さだ子
御飾りを外すことより通夜用意

福知山市 衣川 登代
打ち明けてからの沈黙牡丹雪

京都市 根来美知代

小川 軽舟選

雪国や縄文の顔して住まふ

秋田市 鈴木華奈子

△評▽雪に閉ざされた暗い家になると、堅穴住居に暮らしした縄文時代の気分だ。顔つきまで縄文人になった気がする。日向ぼこの日向残して婆が消ゆ

甲府市 村田 一広

△評▽あの世にひそかにつながっているような不思議な日なた。おばあさんはどこへ消えたのか。週刊誌丸めて脇に草城忌

京田辺市 加藤 草児
初明り防潮堤に親子あり

仙台市 伊藤 和彦
冬ぬくし手書きの古き住所録

古賀市 大野 兼司
半衿の銀の刺繍も淑気かな

広島市 村越 縁
雪降るや幽霊坂はおんな坂

福岡 村岡 昇藏
冬耕や振り向くたびに違ふ雲

高砂市 今井 慎一
東塔の水煙にまづ初日かな

葛城市 上島 博
銀行の前に店出す磨売

奈良市 伊東 勝

<句集>

◇小澤實『澤』第4句集。主宰誌の「澤」が20周年を迎え、気力に満ちた一冊となった。対象の本質に迫る、ていねいな詠みぶりが健在である。△箱眼鏡流れに押すやすべてみどり▽△水入れて葉罐(やかん)くもりぬ桃の花▽△髭(ひげ)濃くて夕(ゆうべ)となりぬさるすべり▽(角川書店・2970円)
◇中川純一『雪道の交叉(こうさ)』。「知音」副代表の第2句集。科学者として北海道で過ごした歳月の作品が、特に輝きをもって迫る。△フラスコをかきせば窓の雪(ゆき)のる▽△水桶(みずおけ)の(き)ら(き)ら(溢(あふ))れ牧(ま)ぢ(ま)き(び)ら(き)▽(朔出版・2750円)
◇筑紫磐井『戦後俳句史 nouvelle 1945-2003』。「三協会統合論」という副題を持つ評論集。「第二芸術」「社会性俳句」「社会性からポスト社会性」「戦後俳壇史」など、著者が取り組んできたテーマの集大成とも呼べる一冊。(ウエップ・3300円)
(俳人・権未知子)

新刊

<歌集>

◇奥村晃作『蜘蛛(くも)の歌』身辺のなげない出来事を言葉で飾らずにそのまま詠む。日常生活の中の意外な発見を大切にしている。著者によれば最終歌集とする第19歌集。△考えてみるまでもなく何億のヒト高層の部屋に寝起(ねお)き(す)▽(六花書林・2860円)
◇伊藤一彦編『老いて歌おつ2023全国版第22集』。「心豊かに歌う全国ふれあい短歌大会」に応募した要介護・要支援高齢者や介護者の作品集。時にユーモアをまじえて自らの思いを告げる歌にひかれる。△親が決めた時代遅れの見合婚(まひご)今こそ言おう好きだよ千恵子 長倉幸夫 97歳▽(鉦脈社・1980円)
◇酒井佑子『空よ』2006年刊行の前歌集「矩形(くけい)の空」より22年に逝去するまでの歌を小池光遠により収録した遺歌集。美意識に貫かれた存在を感じる歌に感銘を受ける。△何といふこともあらずき月を拝み地蔵を拝みけふの日終る▽(砂子屋書房・3300円)
(歌人・中川和子)